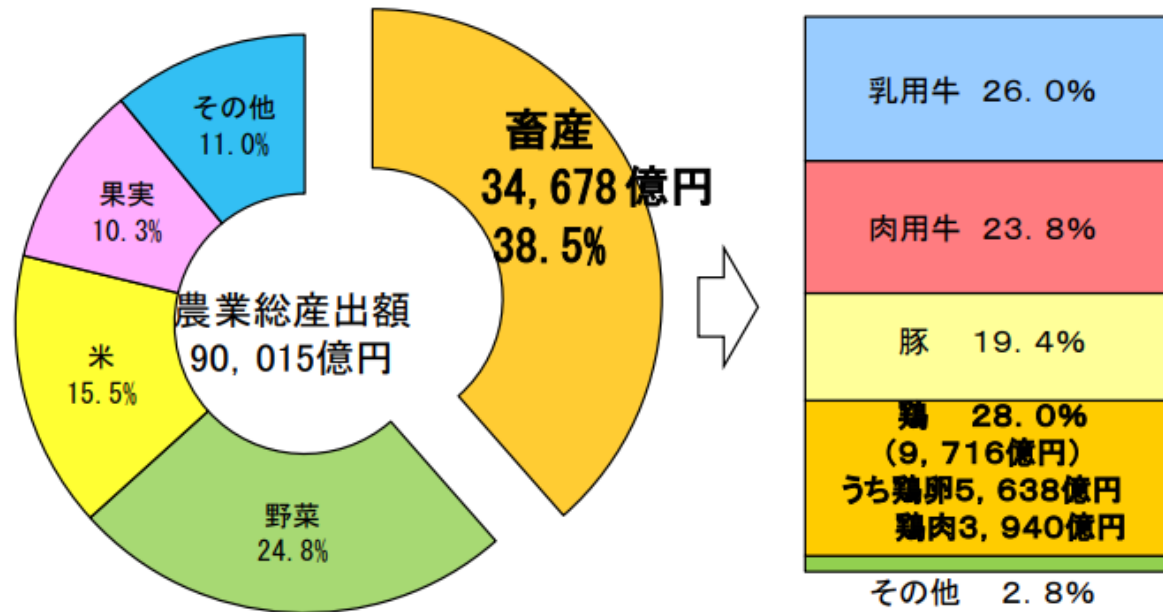


鶏肉の生産需給と流通消費の概況

一般社団法人日本食鳥協会

農業産出額の畜産の占める割合

- 我が国の養鶏は、農業総産出額の約39%を占める畜産のうち約28%のシェア。鶏卵産出額は、農業総産出額のうち約6%、畜産のうち約16%。鶏肉産出額は、農業総産出額のうち約4%、畜産のうち約11%。
- 鶏卵産出額は茨城県が最も多く、産出額の上位5つの県で全国の産出額の約31%を占める。
- 鶏肉産出額は鹿児島県が最も多く、産出額の上位5つの県で全国の産出額の約66%を占める。



資料：農林水産省「生産農業所得統計」（令和4年）
※産出額とは、農業生産活動による最終生産物の総産出額。

○ 鶏卵の産出額の多い都道府県

順位	都道府県	産出額（億円）	全国に占める割合
1	茨城県	548	9.7%
2	鹿児島県	316	5.6%
3	岡山県	308	5.5%
4	千葉県	297	5.3%
5	広島県	284	5.0%
計		1,753	31.1%

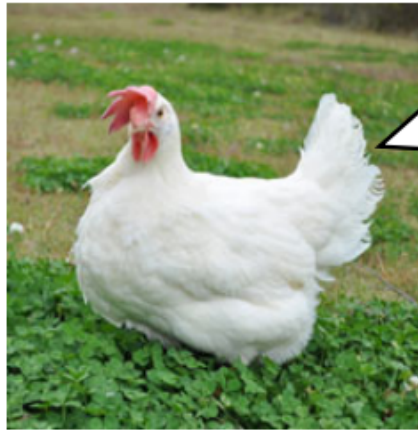
○ 鶏肉の産出額の多い都道府県

順位	都道府県	産出額（億円）	全国に占める割合
1	鹿児島県	889	22.6%
2	宮崎県	762	19.3%
3	岩手県	599	15.2%
4	青森県	217	5.5%
5	北海道	152	3.9%
計		2,619	66.5%

家畜・家きんの種類：鶏

- ・ 鶏には、主として、卵を生産する「卵用種」と、ブロイラーなど肉用として飼養される「肉用種」がある。
 - ・ 在来鶏に、その特徴を生かしつつ卵の生産性の高い品種などを交配することにより、「地鶏」の生産が行われている。
- ※ 「卵肉兼用種」もある。

卵用種



白色レグホン
代表的な卵用種。
産卵数は供用初年
度で250～290個と
多産。

肉用種



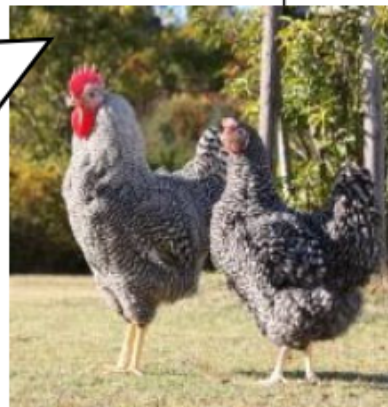
白色プリマスロック
この雌と「白色コー
ニッシュ」という品種
の雄を掛け合わせた
ものが、ブロイラーの
主流。

卵肉兼用種

横斑プリマスロック

代表的な卵肉兼用種。産卵
数は卵用鶏と遜色なく多産。
食肉としても美味。

(独)家畜改良センターが開発
した「岡崎おうはん」がある。



比内地鶏

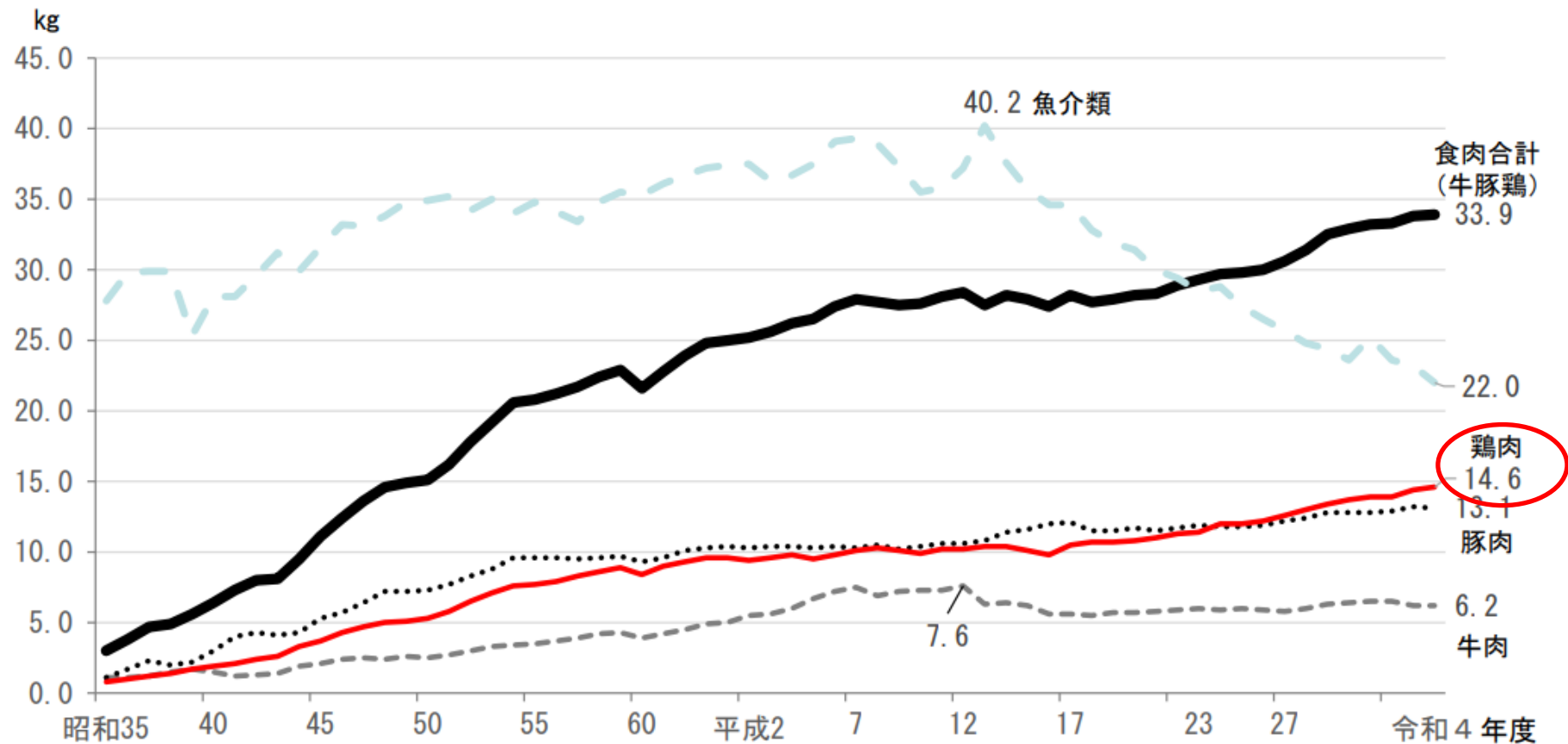
写真は比内鶏
(在来鶏)。この
雄と「ロードアイラ
ンドレッド」という
品種の雌を掛け
合わせて「比内
地鶏」という銘柄
で食用に供され
ている。



鶏肉の消費

- ・ 鶏肉の1人当たり年間消費量は14.6kgで豚肉を超え、食肉の中で最も多い消費量。
- ・ 牛肉消費が横ばいで推移する一方、豚肉とともに鶏肉消費量は増加傾向。

○食肉消費量の推移



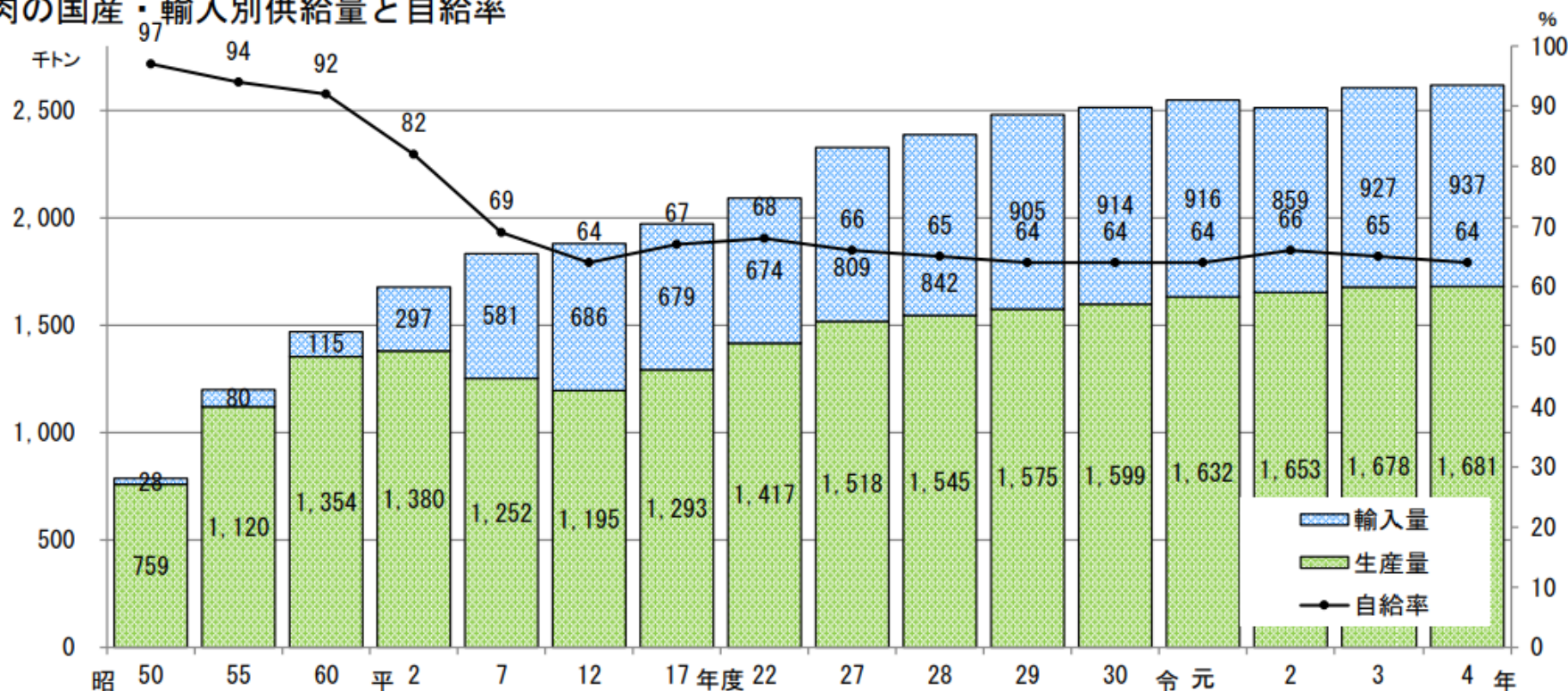
資料：農林水産省「食料需給表」

注：1人1年当たり供給純食料

鶏肉の需給

- ・ 鶏肉の需要は、近年増加傾向で推移。
- ・ 生産量、輸入量とも増加傾向。自給率は64%でほぼ横ばい、家計消費量と外食消費量の割合はほぼ1：1。

○ 鶏肉の国産・輸入別供給量と自給率



資料：農林水産省「食料需給表」

注1：令和4年は概算値

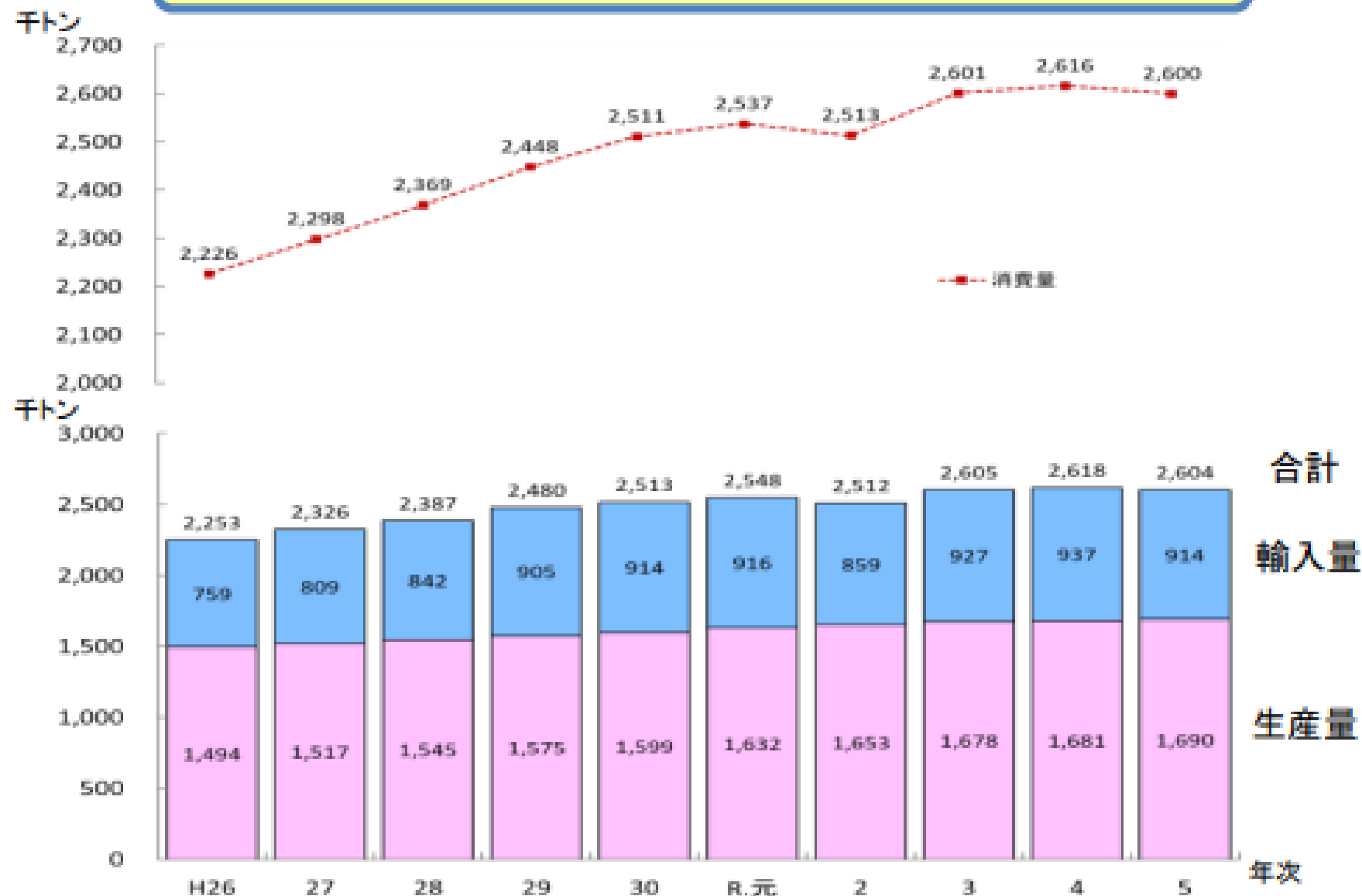
注2：平成21年度以降は年次ベース

注3：自給率＝国内生産量／国内消費仕向量（＝国内生産量＋輸入量－輸出品）

○ 鶏肉の用途別供給割合



鶏肉需給の推移(調製品を含む)



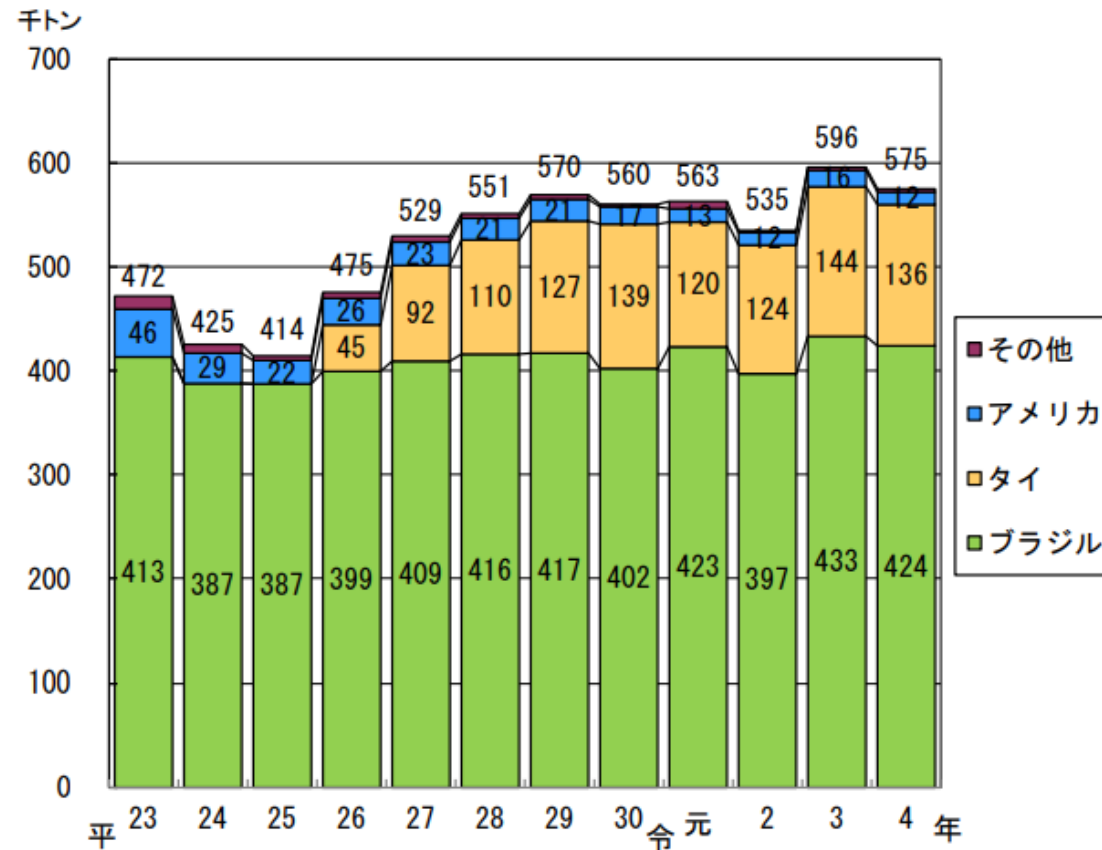
資料:農林水産省「食料需給表」

注1:消費量は、「生産量+輸入量-輸出量-在庫の増加量」により推計。

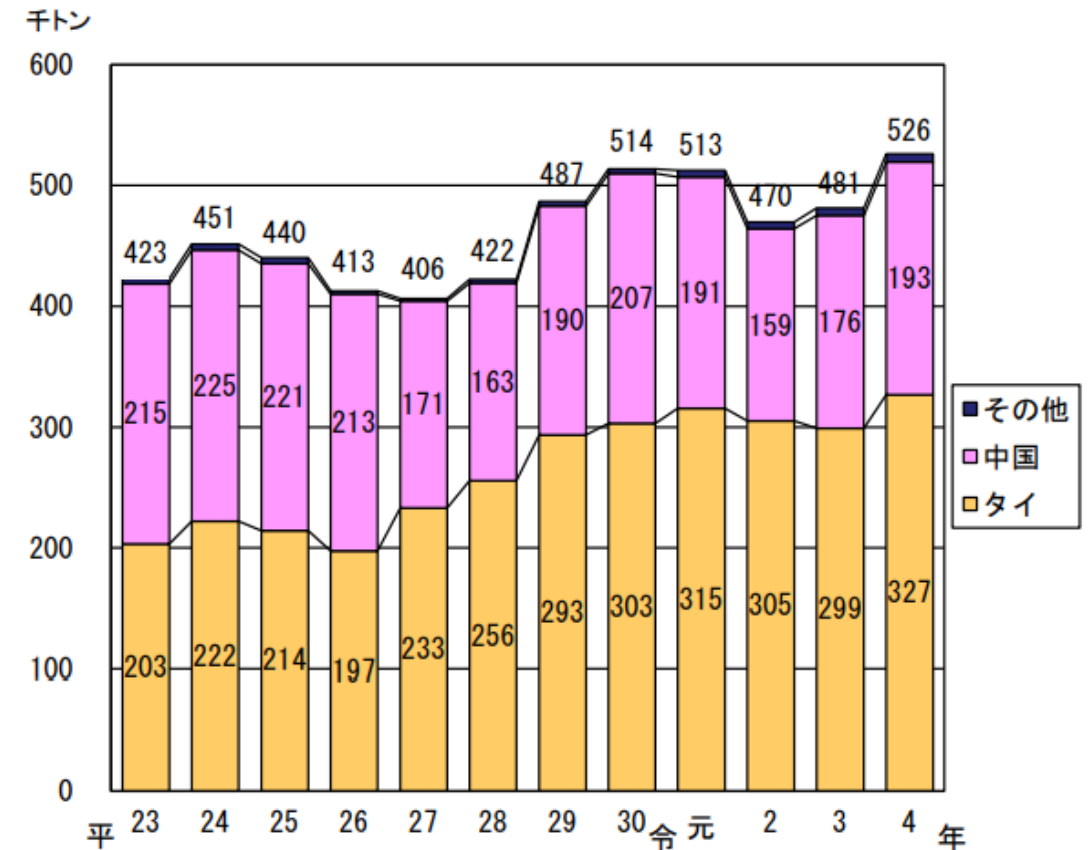
鶏肉等の輸入

- 令和2年は新型コロナウイルス感染症の影響により外食需要が減退したことから、輸入量は前年を下回ったが、令和3年は需要が回復し、前年を上回った。
- 令和4年は、前年のブラジルからの輸入量が多かったこと及び米国での鳥インフルエンザの発生の影響で、輸入量が減少した。
- 鶏肉調製品の輸入量は、タイ及び中国からの輸入でほぼ全量を占めている。

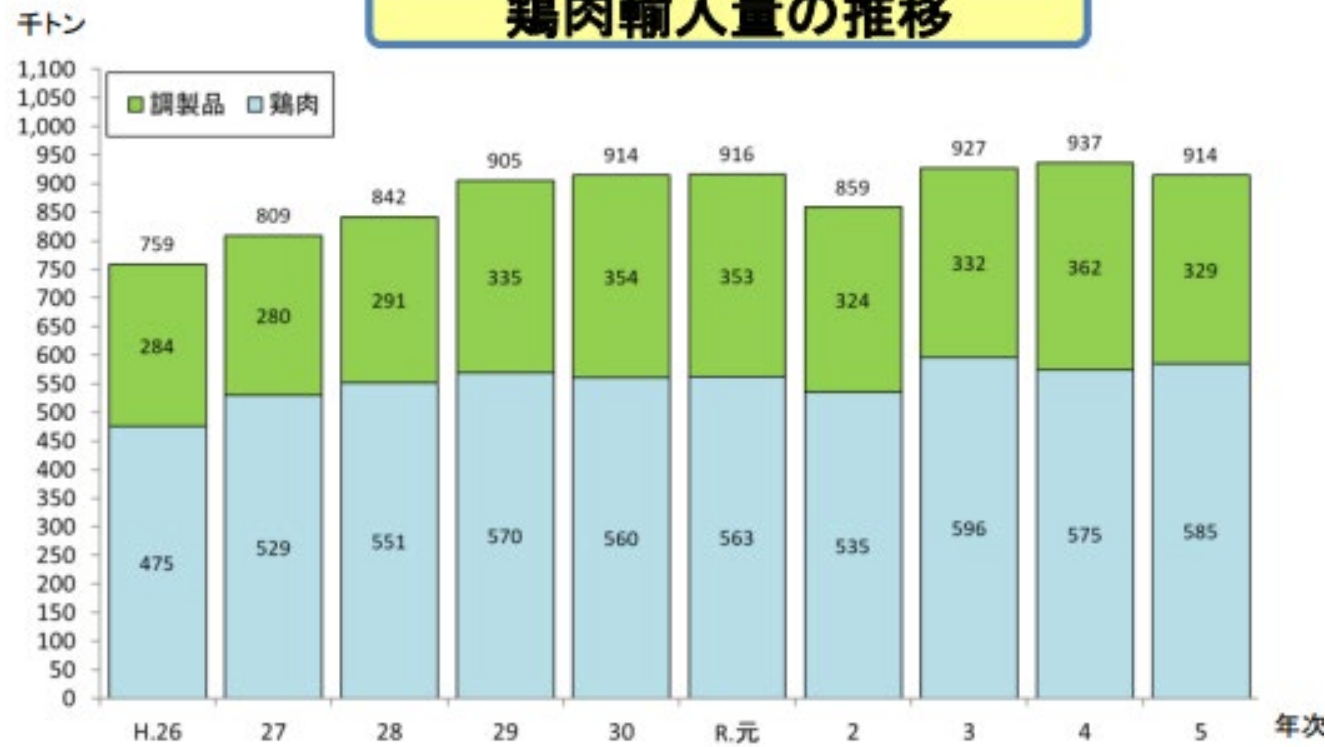
○ 鶏肉輸入量の推移



○ 鶏肉調製品輸入量の推移



鶏肉輸入量の推移



資料:財務省「貿易統計」

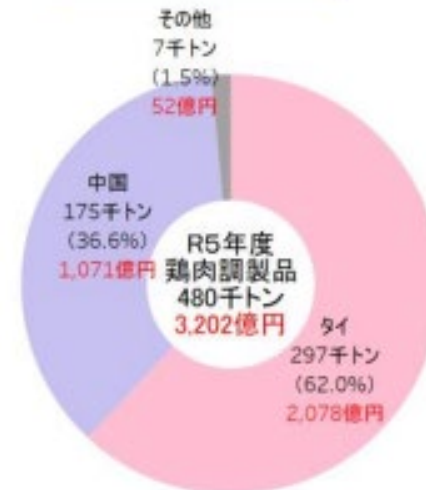
注1:鶏肉調製品を含む。

鶏肉



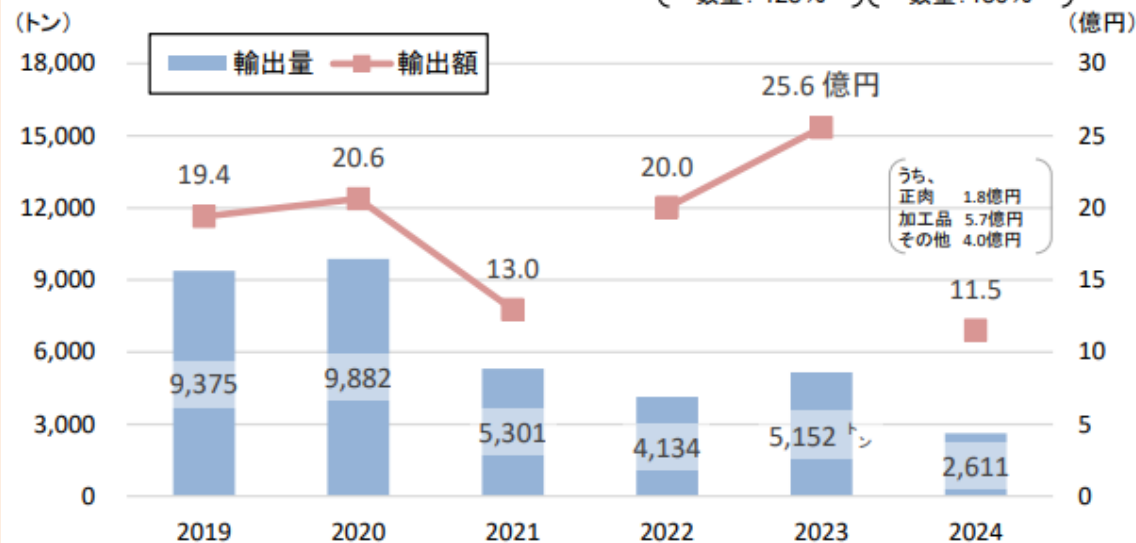
資料:財務省「貿易統計」

鶏肉調製品



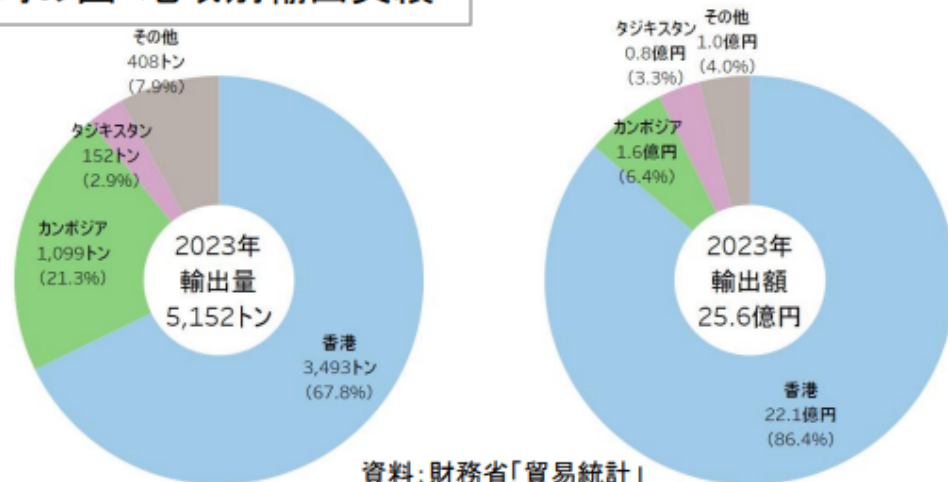
鶏肉の輸出について

最近の輸出実績※



※ 正肉、その他の合計。ただし、2022年以降は加工品も含む。
注) 鶏肉(その他)は、丸鶏、手羽、鶏足等。

鶏肉の国・地域別輸出実績



資料: 財務省「貿易統計」

2030年輸出目標: 100億円
(2025年輸出目標: 45億円)

- 輸出可能国・地域
香港、ベトナム、カンボジア、シンガポール、EU、マカオ 等
- 輸出解禁協議中の国・地域
中国 等

＜輸出先国・地域別の施設認定状況＞ (2024年7月末現在)

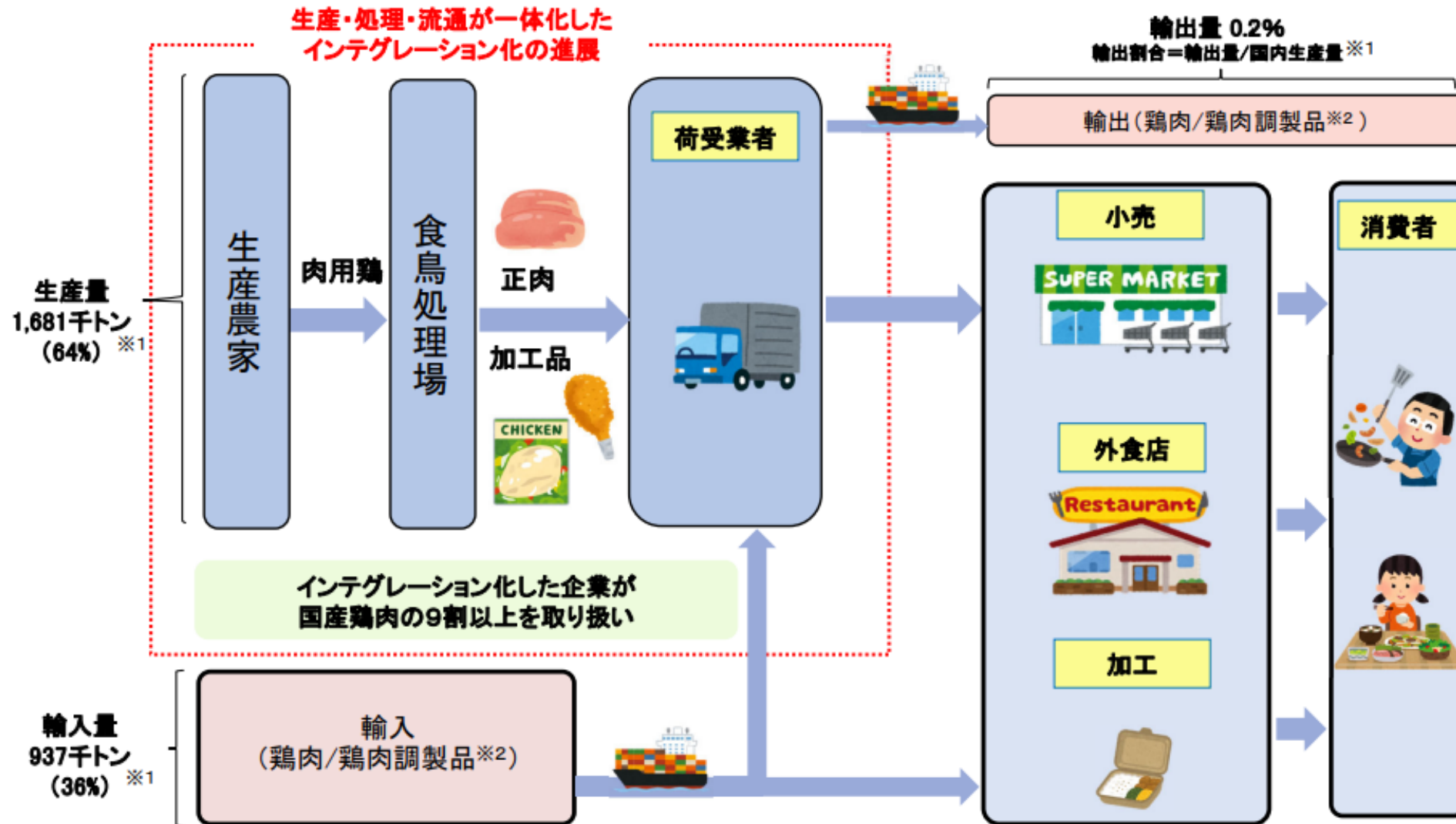
	香港	ベトナム	シンガポール	マカオ
施設数	78	70	1	23

輸出拡大実行戦略に定める主な取組

- 生産者・食鳥処理施設・輸出事業者が生産から輸出まで一貫して輸出促進を図る「コンソーシアム」を産地で構築
- 低コスト化の実現による価格競争力の強化や、輸出先国の求める高度な衛生水準に対応する輸出認定施設を増加
- 輸出先国の規制緩和・輸出解禁に向けた協議の推進



鶏肉の流通



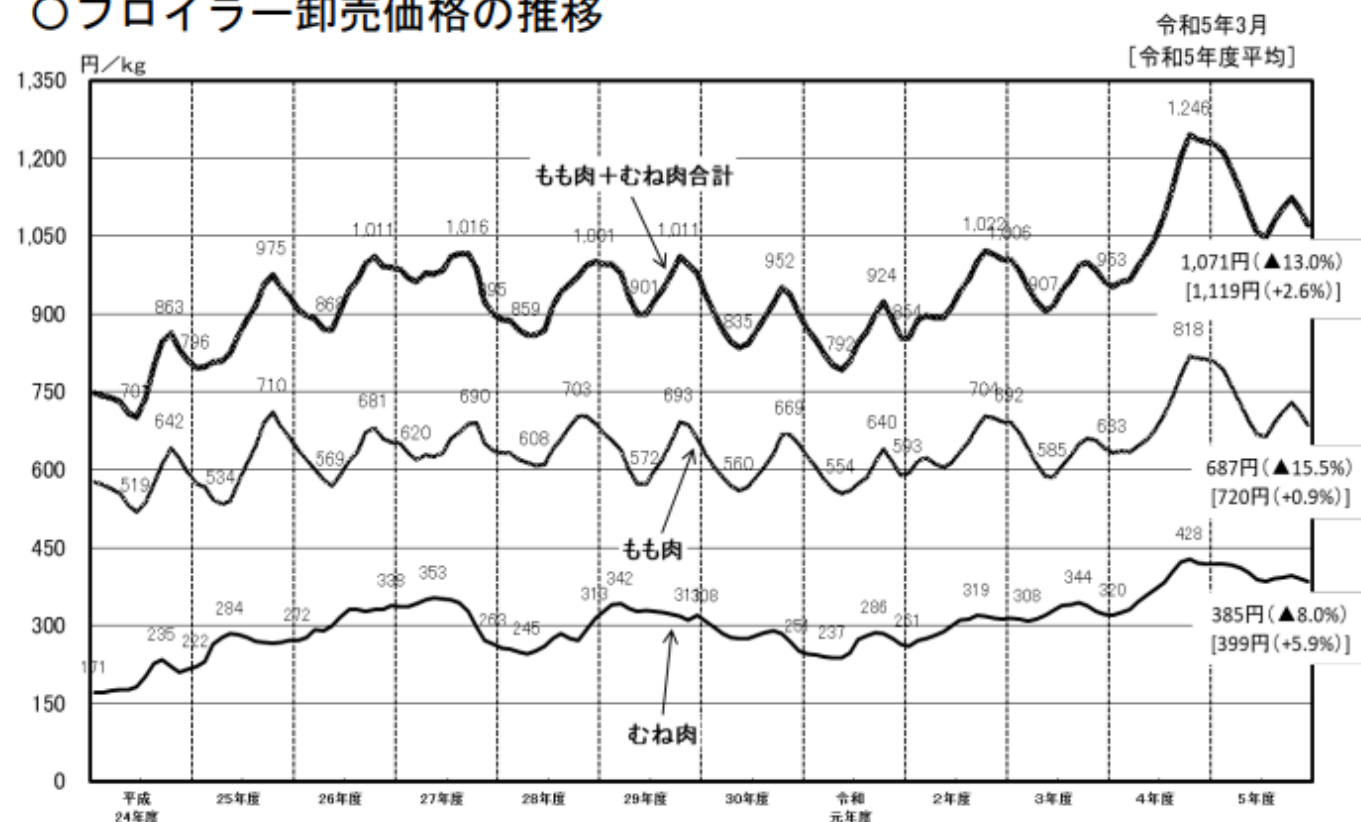
※1: R4年度食料需給表(採卵鶏を含む)

※2: 唐揚げ、焼き鳥、フライドチキン、チキンナゲット、サラダチキン等

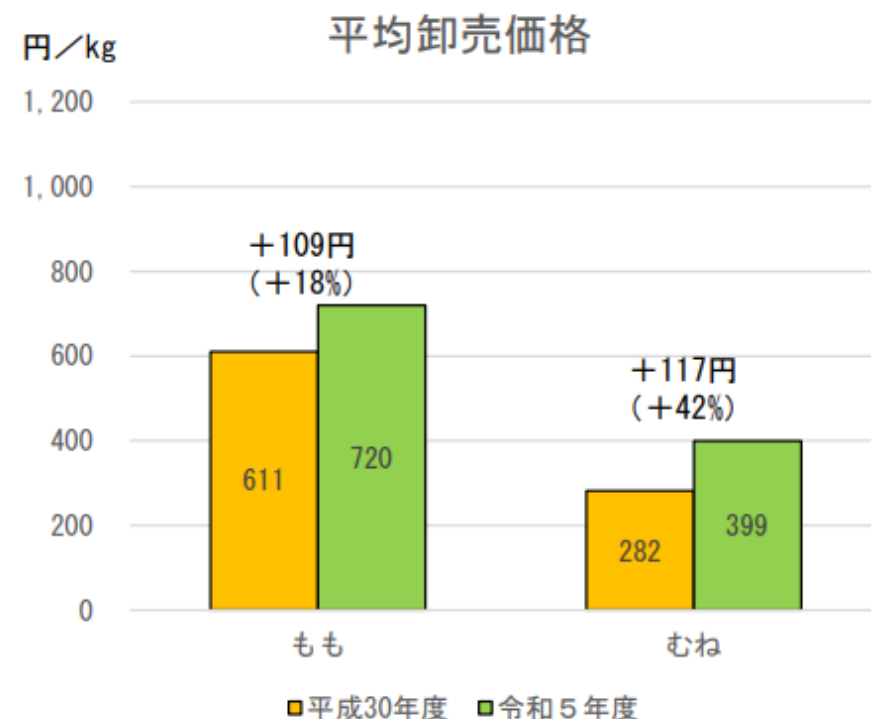
鶏肉価格の推移

- ・ もも肉価格は、夏場の不需要期に向けて価格が低下し、年末の需要期に向けて価格が上昇する傾向がある。
- ・ 近年の生産拡大等を背景に平成30年度以降前年を下回る傾向で推移していたが、令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響による「巣ごもり需要」の高まりから、需要が好調となり、価格は上昇した。
- ・ 令和5年度も堅調な需要から、例年を上回る水準で推移。
- ・ 近年、低価格志向・健康志向の高まりから、もも肉に比べむね肉の価格上昇率が高い。

○ブロイラー卸売価格の推移



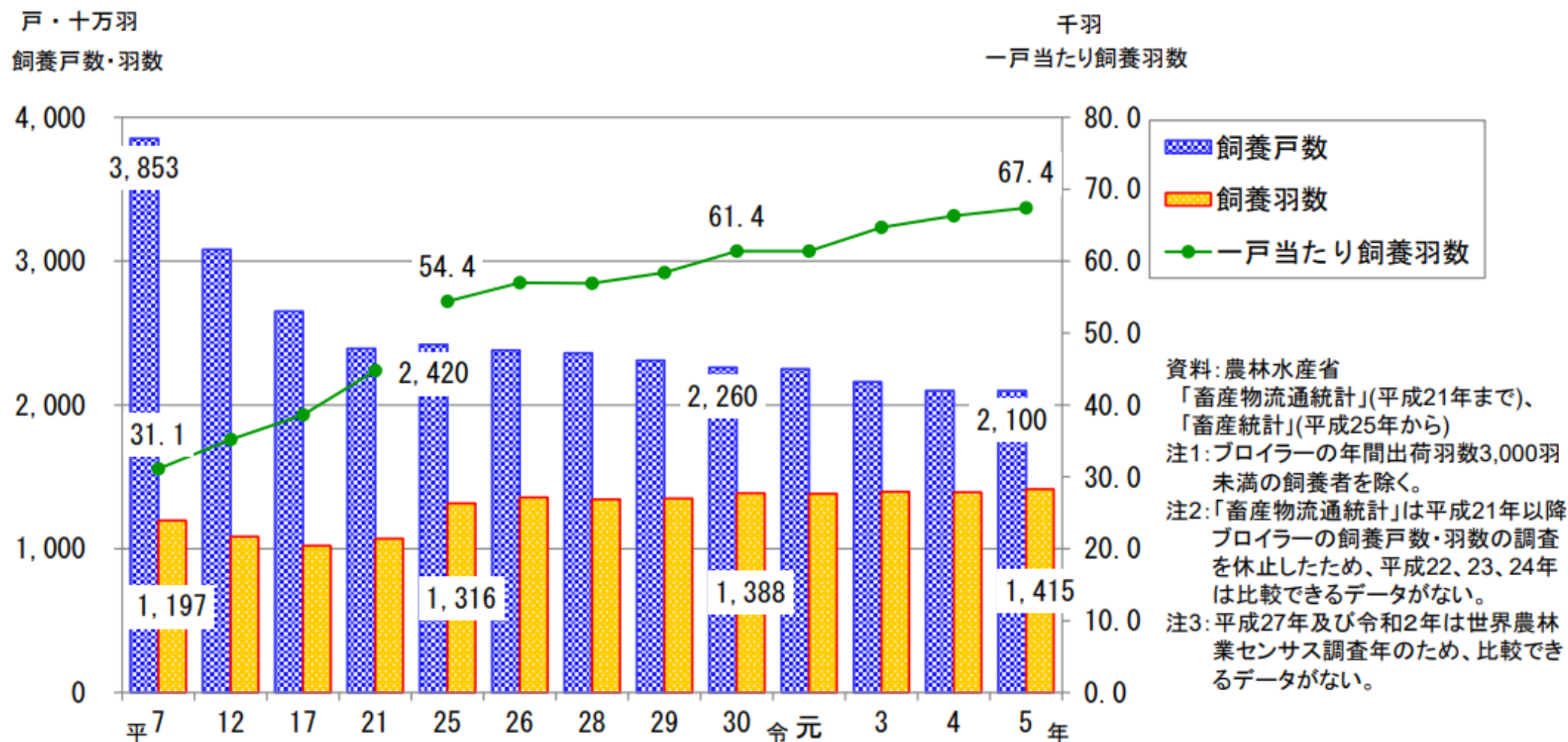
○ブロイラー平均卸売価格の比較



ブロイラーの飼養状況の推移

- ・ 飼養戸数は、近年、小規模飼養者層を中心に年率1～2%前後の割合で減少。
- ・ 飼養羽数は、近年、概ね横ばいで推移。
- ・ 一戸当たり飼養羽数は、増加傾向で推移。

○ 肉用鶏の飼養戸数・飼養羽数の推移



鶏(ブロイラー)の飼養戸数・羽数の推移

- ・ 飼養戸数は、減少傾向で推移しているものの、大規模層は増加傾向で推移。
- ・ 出荷羽数は、増加傾向で推移。
- ・ 一戸当たり飼養羽数及び出荷羽数は増加傾向で推移し、大規模層（年間出荷羽数50万羽以上）のシェアは拡大傾向で推移。

区 分 / 年	26	28	29	30	31	令和 3	4	5	6
飼養戸数（戸）	2,380	2,360	2,310	2,260	2,250	2,160	2,100	2,100	2,050
（対前年増減率）（％）	（▲1.7）	（▲0.8）	（▲2.1）	（▲2.2）	（▲0.4）	（▲4.0）	（▲2.8）	（0.0）	（▲2.4）
飼養羽数（千羽）	135,747	134,395	134,923	138,776	138,228	139,658	139,230	141,463	144,859
（対前年増減率）（％）	（3.1）	（▲1.0）	（0.4）	（2.9）	（▲0.4）	（1.0）	（▲0.3）	（1.6）	（2.4）
出荷戸数（戸）	2,410	2,360	2,320	2,270	2,260	2,190	2,150	2,120	2,100
うち50万羽以上層（戸）	230	266	268	272	282	298	313	277	312
戸数シェア（％）	（9.5）	（11.3）	（11.6）	（12.0）	（12.5）	（13.7）	（14.6）	（13.1）	（14.9）
出荷羽数（千羽）	652,441	667,438	677,713	689,280	695,335	713,834	719,186	720,878	731,847
うち50万羽以上層（千羽）	270,971	294,138	296,577	312,229	321,553	343,025	355,116	350,874	387,559
羽数シェア（％）	（41.5）	（44.1）	（43.8）	（45.3）	（46.2）	（48.1）	（49.4）	（48.7）	（53.0）
一戸当たり平均 飼養羽数（千羽）	57.0	56.9	58.4	61.4	61.4	64.7	66.3	67.4	70.7
一戸当たり平均 出荷羽数（千羽）	270.7	282.8	292.1	303.6	307.7	326.0	334.5	340.0	348.5

資料：農林水産省「畜産物流通統計」、「畜産統計」（各年2月1日現在）注1：50万羽以上層戸数シェア及び羽数シェアは、学校、試験場等の非営利的な飼養者を除いた数値を用いて算出している。2：平成25年以降の数値は、年間出荷羽数3,000羽未満の飼養者を除く数値である。3：2月1日現在で飼養のない場合であっても、前1年間（前年の2月2日から当年の2月1日まで）に3,000羽以上の出荷があれば、出荷戸数、出荷羽数、一戸当たり出荷羽数に含めている。4：平成27年及び令和2年は世界農林業センサスの調査年であるため比較できるデータがない。また、平成28年及び令和3年の（ ）内の数値は、それぞれ平成26年及び平成31年との比較である。

鶏(採卵鶏)の飼養戸数・羽数の推移

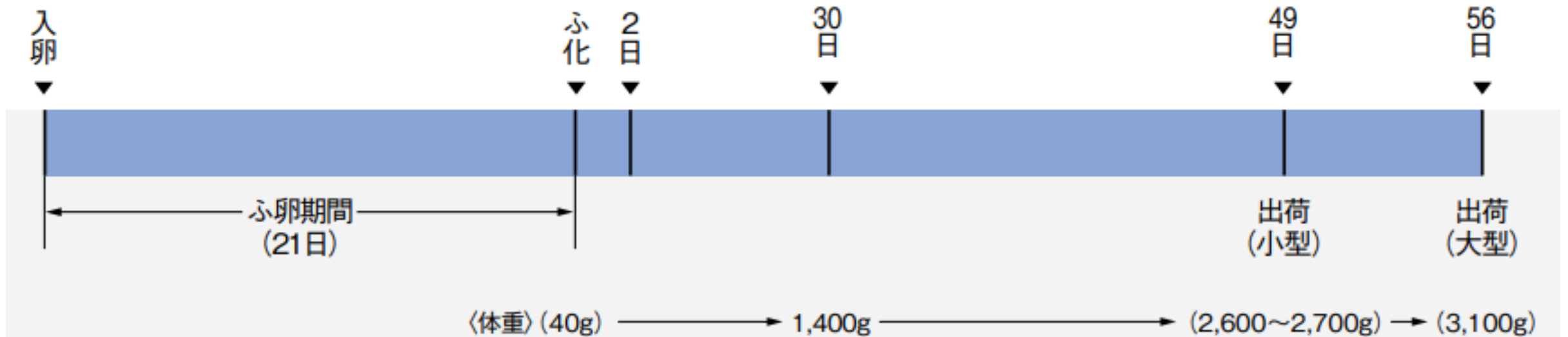
- ・ 飼養戸数は、減少傾向で推移。主に小規模層で減少。
- ・ 成鶏めす飼養羽数は、令和3年以降減少傾向で推移していたが、令和6年はわずかに増加。
- ・ 一戸当たり飼養羽数は、増加傾向で推移しており、大規模化が進展。

区 分 / 年	平成26	28	29	30	31	令和3	4	5	6
飼養戸数(戸)	2,560	2,440	2,350	2,200	2,120	1,880	1,810	1,690	1,640
(対前年増減率) (%)	(▲3.4)	(▲4.7)	(▲3.7)	(▲6.4)	(▲3.6)	(▲11.3)	(▲3.7)	(▲6.6)	(▲3.0)
うち成鶏めす10万羽以上層(戸)	324	347	340	332	329	334	334	306	313
戸数シェア (%)	(14.0)	(15.7)	(16.1)	(16.7)	(17.1)	(19.6)	(20.5)	(20.1)	(21.3)
成鶏めす飼養羽数(千羽)	133,506	134,569	136,101	139,036	141,792	140,697	137,291	128,579	129,729
(対前年増減率) (%)	(0.3)	(0.8)	(1.1)	(2.2)	(2.0)	(▲0.8)	(▲2.4)	(▲6.3)	(0.9)
うち10万羽以上層(千羽)	93,476	99,395	101,048	104,515	107,734	112,535	109,002	102,908	105,162
羽数シェア (%)	(70.0)	(73.9)	(74.3)	(75.2)	(76.0)	(80.0)	(79.4)	(80.1)	(81.1)
一戸当たり平均									
成鶏めす飼養羽数(千羽)	52.2	55.2	57.9	63.2	66.9	74.8	75.9	76.1	79.1

資料:農林水産省「畜産統計」(各年2月1日現在) 注1:種鶏のみの飼養者を除く。2:10万羽以上層戸数シェア及び羽数シェアは、学校、試験場等の非営利的な飼養者を除いた数値を用いて算出している。3:数値は成鶏めす羽数1,000羽未満の飼養者を除く数値。4:平成27年及び令和2年は世界農林業センサスの調査年であるため比較できるデータがない。また、平成28年及び令和3年の()内の数値は、それぞれ平成26年及び平成31年との比較である。

鶏肉が生産されるまで

鶏肉生産の主流は、ブロイラー飼育です。ブロイラー飼育とは、肉用鶏のひなを導入し、若鶏（50～60日齢）で出荷する飼育形態であり、一斉にひなを導入し、一斉に出荷するオールイン・オールアウト方式が一般的です。



卵を21日間孵卵機の中で暖めて孵化させます。孵化後2日間は初生雛と呼び、この間に雌雄鑑別を行います。雄も雌も肉用に飼育しますが、雌雄別々に飼育するため雌雄鑑別が必要になります。30日齢までを育雛前期、以後出荷される

56日齢までを育雛後期と呼びます。ブロイラーと呼ばれる肉用鶏は、56日（8週）齢や49日（7週）齢で出荷されます。一般に地鶏と呼ばれる鶏は、日本在来の鶏を改良したもので、出荷月齢を100日程度まで延ばした食用鶏です。

国産チキンの育成について

安心・安全な国産チキンがどのようにして生まれ、育てられているかについてご紹介します。

鶏種について



現在、日本国内で流通している国産チキンは9割以上は「ブロイラー」と呼ばれる食肉用鶏となります。小売店では「若鶏」として販売されています。ブロイラーは白色コーニッシュの雄と白色プリマスロックの雌の交雑種が主流となっています。

「いかに少ない飼料で、短期間に、多くの肉を得るか」

この目標の下に、長い年月をかけて何世代も交配させて品種改良の研究を積み重ねた結果、現在の品種に至った経緯から、生産性は非常に高いものになっています。





白色コーニッシュ種

アメリカでブロイラー生産用の雄として改良された鶏種で、全身が白色で胸の肉付きが良いもの。

白色プリマスロック種

卵肉兼用種のプリマスロック種を大型に改良して、ブロイラー用素びなの生産用の種鶏に飼養されているもの。



国産チキンの育成について



ブロイラーは徹底した衛生・栄養管理のもとで育てられているので、安心して安全な国産チキンを日本全国に提供することができます。

1

種鶏場



種鶏場とは、ヒヨコになるための種卵を生産するための施設です。種鶏（ヒヨコの親）は安全で良質なエサが与えられ、健康的な種鶏が産んだ卵だけがヒナになります。

健康的な
種鶏から
産まれた卵



種鶏場

孵卵場で21日間
温められます。



温度・湿度が
自動で管理され
卵が産まれます。

孵化したての
健康的なヒナ



産まれたヒナは
生産農場へ

徹底した消毒で 病原菌を持ち込まない

ヒナを載せた車両は、徹底した消毒作業を行うことにより、外部から病原菌を持ち込まないようにしています。



輸送トラック全体を消毒！
タイヤの溝もクリーンな状態に

2

生産農場



種鶏場から移されたヒナたちは、生産農場内の鶏舎で育てられます。温度や湿度、給水・給餌もすべて自動的に行われるので、病原菌に触れる機会を減らし安全に育成されます。50日前後の育成で体重が約3kg程度になり食鳥処理場に出荷されます。



温度や湿度を自動的に調整

給水・給餌も自動的に
行われ病原菌に触れさせない



50日前後で
約3kgまで成長

...

出荷

国産チキンの解体・流通について

生産農場から出荷されたブロイラーは3段階の検査を経て解体されます。
どのような検査が行われ、どのようにして店頭販売されるかについてご紹介します。

検査から解体まで



出荷されたブロイラーがスーパーや精肉店などの小売店に並ぶまでの間も、徹底した管理が行われています。食鳥検査法という法律に則った検査を行うことで、安全な国産チキンを提供しています。

食鳥検査は全部で3段階

食鳥処理場では、獣医師である検査員が法律に基づき次のような検査を行います。

1

生体検査

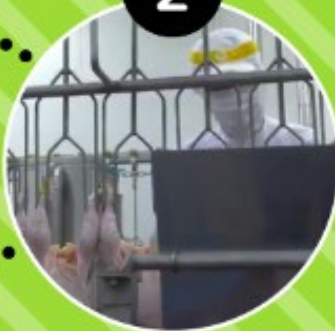
検査員がケージ越しに1羽1羽観察し、体調が悪そうだったり、病気にかかっているブロイラーを取り除きます。



2

と体検査

羽毛を抜きとり、水洗いした「と体」の表面に病気などによる色の变化などがないかを検査します。



3

内臓検査

取り除かれた内臓に異常がないかを調べ、正常なブロイラーのみ加工されます。

衛生管理を徹底し、安全な国産チキンをお届けします。

検査をクリアした鶏は、できる限り人の手が触れないよう機械により解体されます。処理場内の温度管理や消毒など衛生管理も徹底して行います。



新鮮な状態で出荷

新鮮な状態で出荷

食鳥処理場で加工された国産チキンは店頭までチルド輸送され、
新鮮なまま配送されます。

食鳥処理場



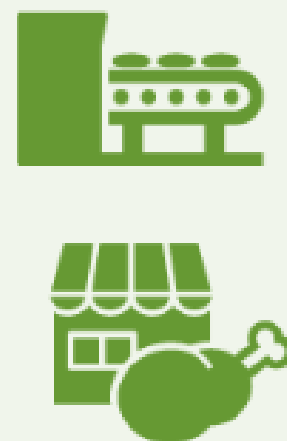
配送



チルド輸送

理想的な美味しさや鮮度を保った
状態で輸送されます。

加工業者・小売店

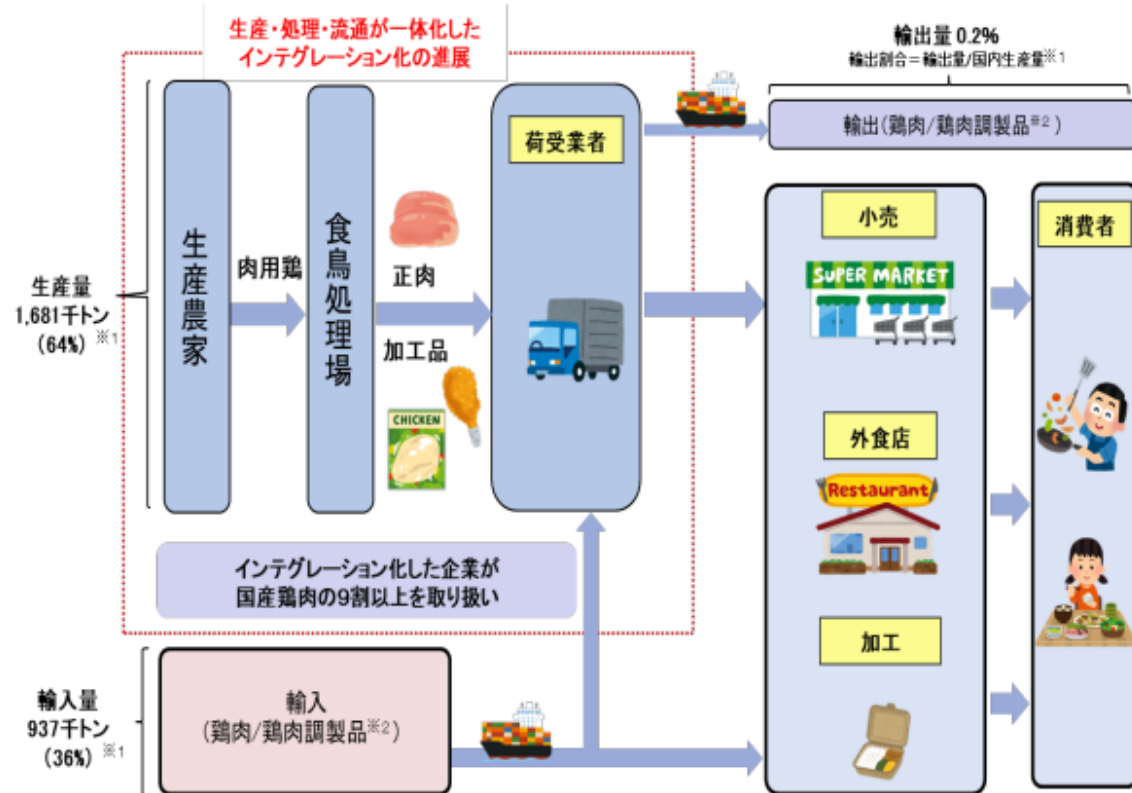


消費者

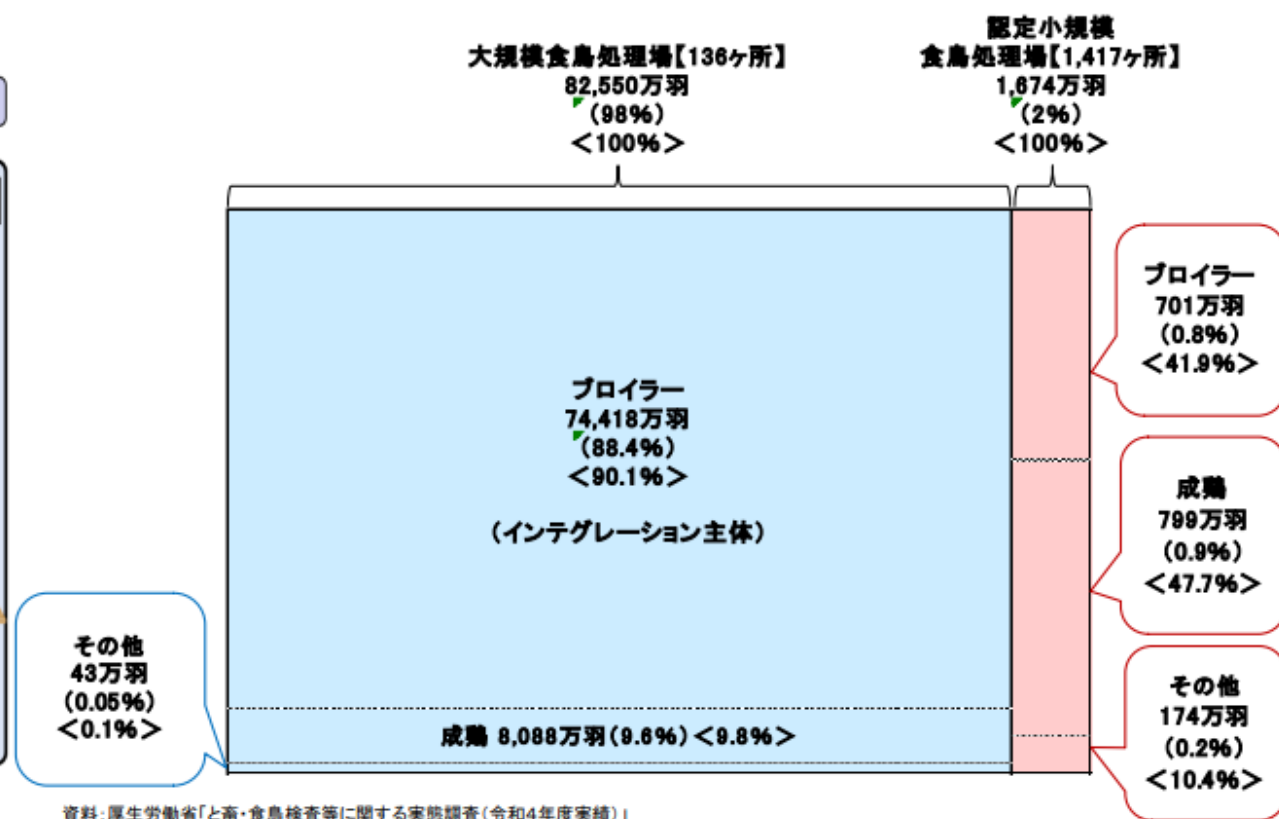


- 鶏肉生産では、生産から販売までを一貫して行う業態化が進んでおり、ほとんどがインテグレーション（9割超）され、国内需要（消費量）に対応した効率的な生産が行われている。

○鶏肉のインテグレーションの仕組み



○食鳥処理の状況



※1：農林水産省「食料需給表」（令和4年、採卵鶏を含む）

※2：唐揚げ、焼き鳥、フライドチキン、チキンナゲット、サラダチキン等

資料：厚生労働省「と畜・食鳥検査等に関する実態調査（令和4年度実績）」

注1：認定小規模食鳥処理場とは、年間処理羽数が30万羽以下の食鳥処理場で、都道府県知事から認定を受けた施設

注2：（ ）内は全体の食鳥処理羽数に占める割合

注3：<>内は規模別食鳥処理場の処理羽数に占める割合